

アジア経済トレンド

2010年10月

目次

韓国	1
台湾	2
ASEAN・インド	3
中国	4



調査部 環太平洋戦略研究センター

<http://www.jri.co.jp/thinktank/research/>

本資料は2010年10月26日時点で利用可能な政府統計等をもとに作成

本資料に関するご照会先

環太平洋戦略研究センター

向山 英彦 (mukoyama.hidehiko@jri.co.jp)

佐野 淳也 (sano.junya@jri.co.jp)

1. 韓国経済

<7~9月期は前期比0.7%へ低下、9月は消費者物価が上昇>

7~9月期は前期比0.7%成長

・7~9月期の実質GDP成長率(速報値)は前期比(以下同じ)0.7%と、4~6月期の1.4%を下回った(前年同期比も7.2%から4.5%へ低下)。民間消費が1.3%増と4~6月期の伸びを上回ったものの、輸出と設備投資が鈍化。また、前期にマイナスとなった建設投資はプラスに転じる。

足元の指標も景気回復力の低下を示す

- ・9月の輸出は前年同月比16.5%増と10カ月ぶりに20%を下回る。
- ・実質小売売上高は7月、8月堅調に推移。ただし、9月の国内自動車販売台数は秋夕(チュソク)の影響もあり、前年同月比 12.9%に。
- ・製造業の景況判断指数は6月の105をピークに9月には92へ低下。とりわけ輸出志向企業では117から95へ大幅に低下。
- ・9月の失業率(季調済)は8月の3.4%から3.7%へ上昇。
- ・9月の消費者物価上昇率(前年同月比)は野菜価格の高騰により3.6%へ上昇。

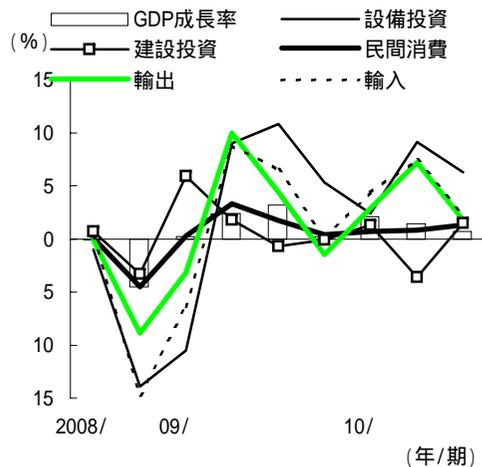
利上げ見送りが続く

・7月9日に約2年ぶりに政策金利が引き上げられたが、8月以降は据え置き。現在、主要銀行の定期預金(1年物)金利が3%程度であるため、実質金利はマイナス。利上げによる海外からの投機資金の流入と不動産関連リスクの高まりを警戒していると考えられる。

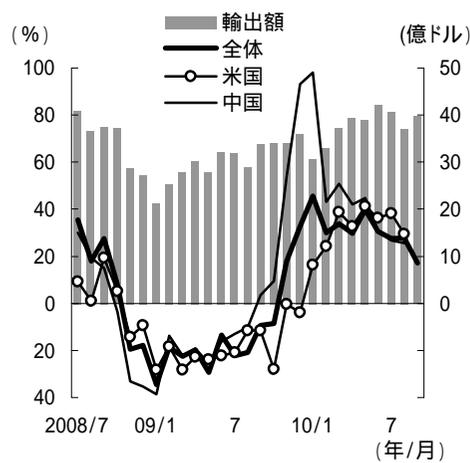
2010年は5.9%成長に。

- ・世界経済の減速を背景に景気回復ペースが弱まるため、2010年の成長率は5.9%になるものと予想。2011年は4%台前半に低下する公算が大。
- ・足元で物価が上昇しているため、年内に再利上げの可能性あり。これによる不動産関連リスクの高まりに要注意。

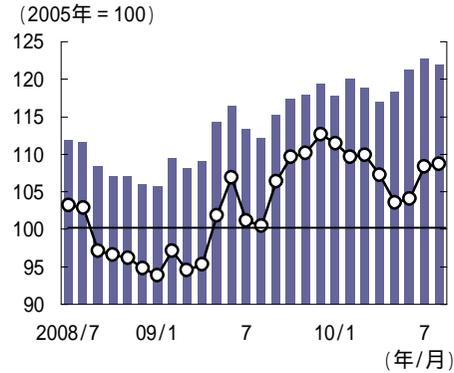
(図表1-1)実質GDP成長率(前期比)



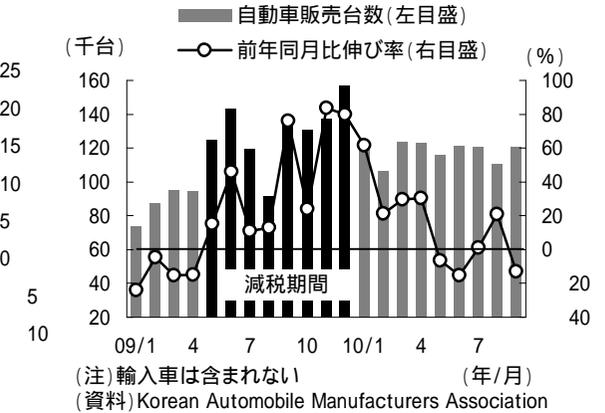
(図表1-2)輸出額(前年同月比)



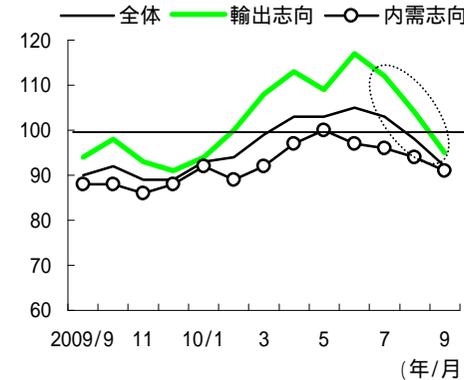
(図表1-3)実質小売売上指数(季調済)
(前年同月比)



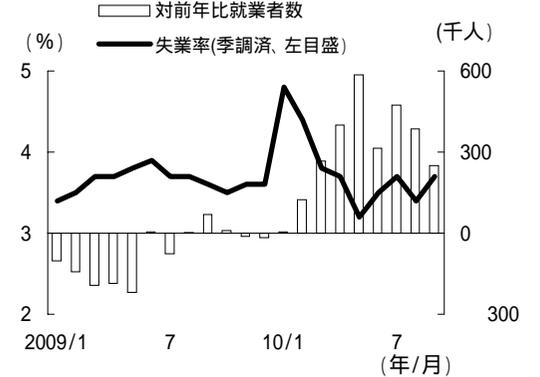
(図表1-4)国内自動車販売台数



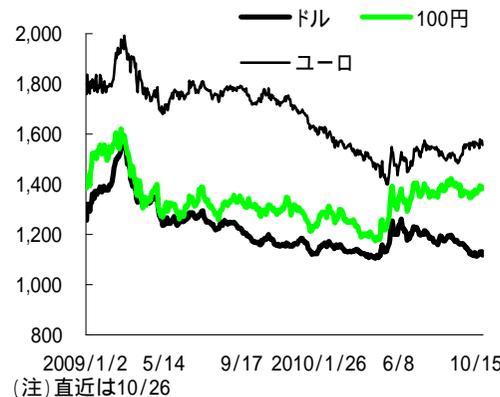
(図表1-5)製造業のBSI(業況判断指数)



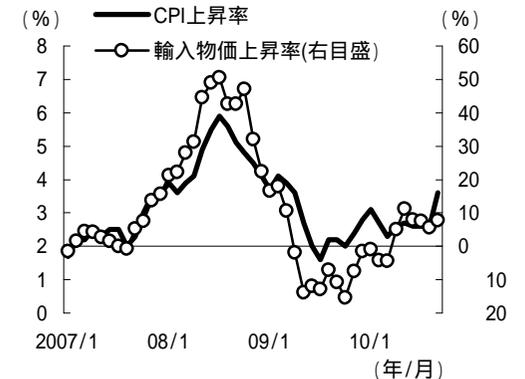
(図表1-6)雇用関連



(図表1-7)為替レート



(図表1-8)物価動向(前年同月比)



2. 台湾経済

< 輸出と製造業生産の増勢が鈍化 >

4～6月期は12.5%の成長

・輸出と民間投資が著しく伸びたことにより、4～6月期の実質GDP成長率(前年同期比、以下同じ)は12.5%に。輸出が37.5%増、総固定資本形成が30.8%増(民間部門は37.5%増)となった一方、民間消費は4.4%増とやや伸び悩んだ。

前期比成長率(年率)は1～3月期の10.9%(改訂)から8.2%へ減速。

・足元では、輸出額(通関ベース)が9月に前年同月比(以下同じ)17.5%増、米国向け37.8%増、日本向け21.2%増、EU向け12.1%増、中国向けは8.9%増と全体の伸びを下回った。品目別では一般機械が50.8%増となった一方、精密機器類(液晶パネルを含む)は5.4%。中国向けの液晶パネルが伸び悩んだことによる。

また、9月の輸出受注額は過去最高となったが、前年同月比では低下。

消費に関しては、「猛暑効果」もあり、小売売上高が7月8.8%増、8月6.6%増と堅調に推移。自動車販売台数は減税措置終了の影響により昨年末水準を下回っているものの、前年同月比ではプラスを維持。

内外需の減速に伴い製造業生産の伸びが低下しており、9月は前年同月比13.1%増。7～9月期は季調済で前期比0.8%。

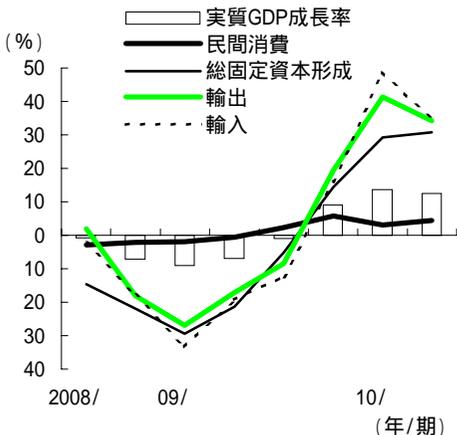
・雇用環境の改善は続いており、失業率(季調済)は8月の5.17%から9月に5.08%へ低下(就業者数は前年同月比25.3万人増)。

今後の経済見通し

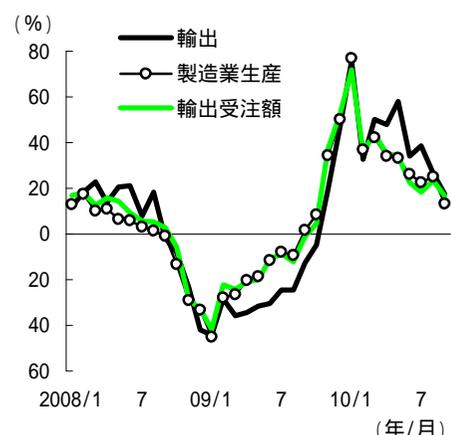
・中国での在庫調整の進展に伴い液晶パネルの輸出回復が期待されるものの、世界経済減速の影響により輸出の増勢鈍化はしばらく続く公算が大。

・これまでの急回復の反動と世界経済減速の影響により、年末にかけて回復ペースは鈍化し、2010年は7.4%の成長になるものと予想。

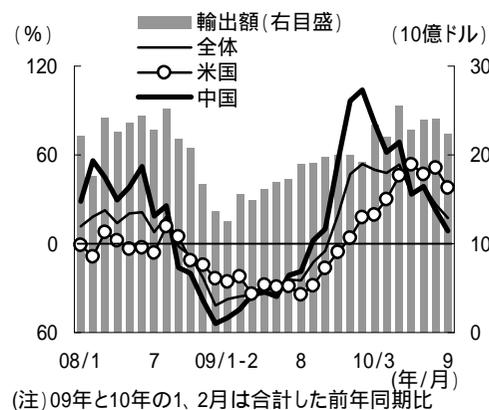
(図表2-1)実質GDP成長率(前年同期比)



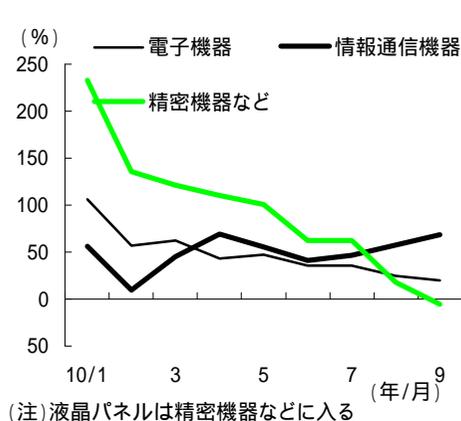
(図表2-2)輸出・生産関連指標(前年同月比)



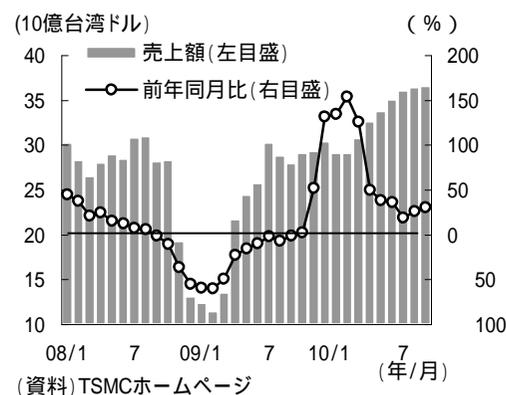
(図表2-3)輸出動向(前年同月比)



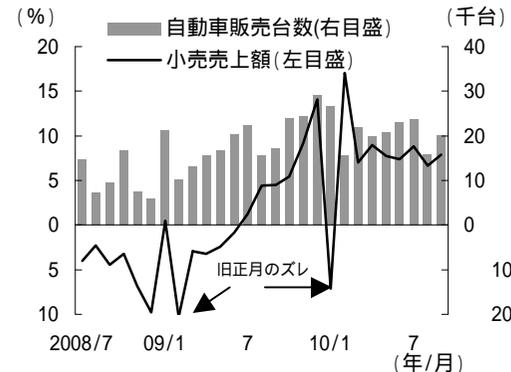
(図表2-4)主要品目の輸出(前年同月比)



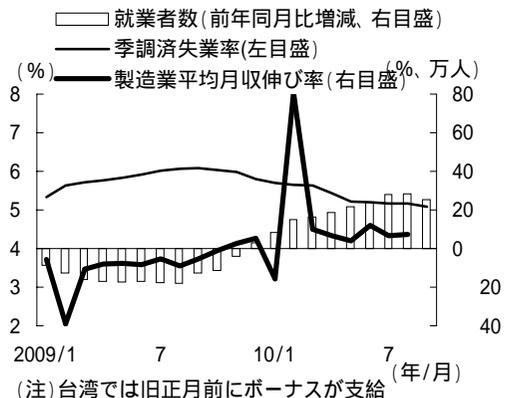
(図表2-5)TSMCの売上額



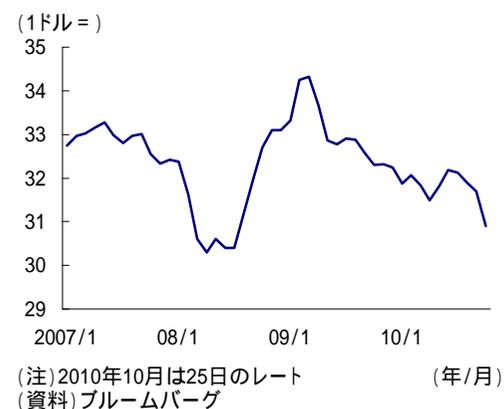
(図表2-6)消費関連指標(前年同月比)



(図表2-7)雇用・所得関連指標



(図表2-8)為替レート



3. ASEAN・インド経済

<一部で景気回復ペースが鈍化>

7～9月期の実質GDP成長率はシンガポールで前期比マイナス

・シンガポールの7～9月期(速報値)の実質GDP成長率は前年同期比10.3%となったが、前期比(年率換算)では、これまでの急回復の反動と製造業特にバイオメディカル産業の落ち込みにより 19.8%に(1～3月期は45.9%、4～6月期は27.3%)。

・ベトナムの1～9月期の成長率(前年同期比)は6.5%と、1～6月期の6.2%を上回る。貿易赤字削減策の一環として、8月18日、通貨ドンを中心レートが2%切り下げられる。学費・食糧品価格の上昇に通貨切り下げの影響が重なり、消費者物価上昇率(前年同月比)は8月の8.2%から9月8.6%、10月9.7%と加速。

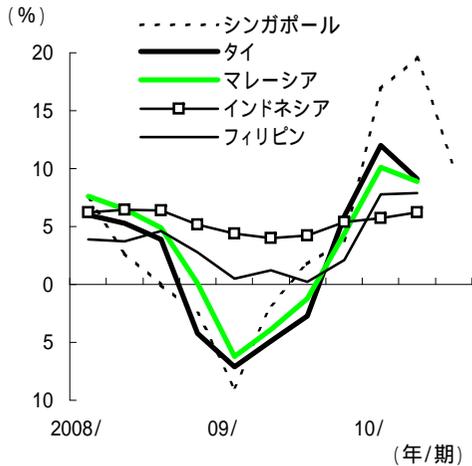
タイ、マレーシアなどでは輸出と製造業生産の増勢が鈍化

・インドネシアでは内需の拡大と輸出の回復により、4～6月期の実質GDP成長率は前期の5.7%を上回る6.2%に。他方、マレーシアでは前期の10.1%をやや下回る8.9%、タイでも前期の12.0%を下回る9.1%に(ただし前期比は0.2%)。足元では、輸出と製造業生産の増勢が鈍化。消費に関しては、所得・雇用環境の改善と低金利などに支えられて、タイやインドネシアでは自動車販売の好調が続く。

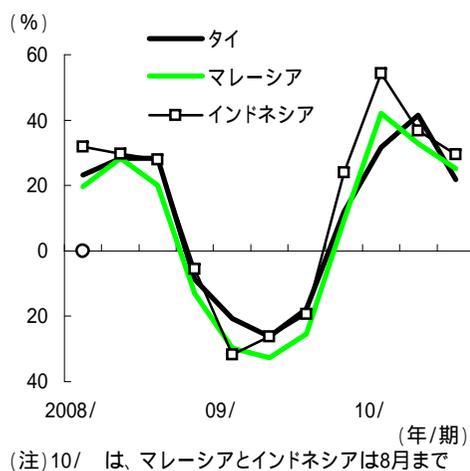
インド

・内需の拡大に輸出の回復が加わり、4～6月期の成長率は8.8%へ加速(製造業12.4%、商業・ホテル・運輸・通信12.2%)。足元では、製造業生産の伸びが8月に低下したが、乗用車販売の好調は続く。各メーカーが小型車を投入しており、競争は激化。
・9月に今年5回目の利上げ実施。インフレ圧力は弱まる傾向。
・消費の拡大、インフラ投資、輸出の回復などに支えられて、2010年度(2010年4月～2011年3月)の成長率は8.5%になるものと予想。

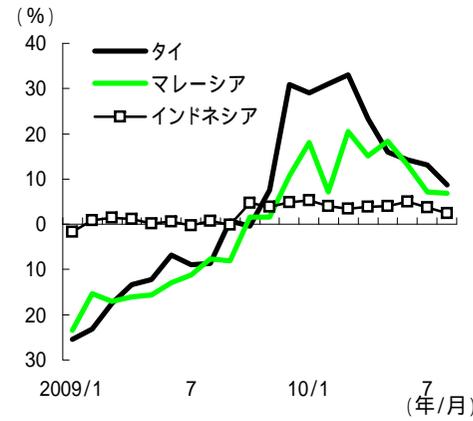
(図表3-1)実質GDP成長率(前年同期比)



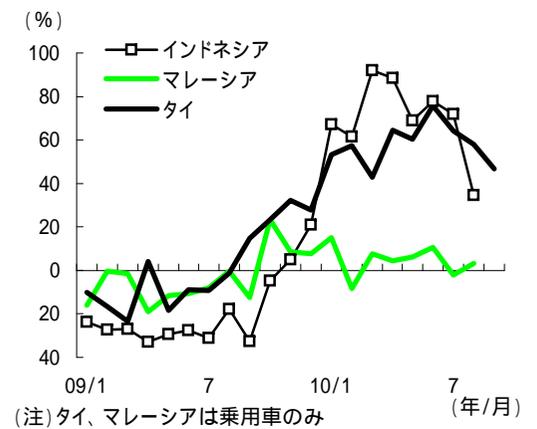
(図表3-2)輸出動向(前年同期比)



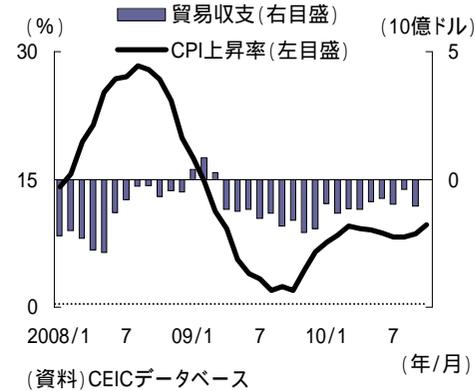
(図表3-4)製造業生産(前年同月比)



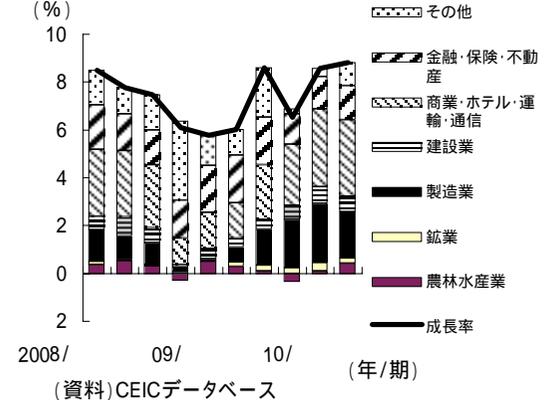
(図表3-4)自動車販売台数(前年同月比)



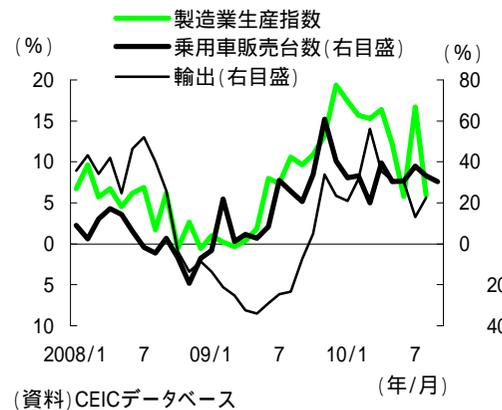
(図表3-5)ベトナムの経済指標



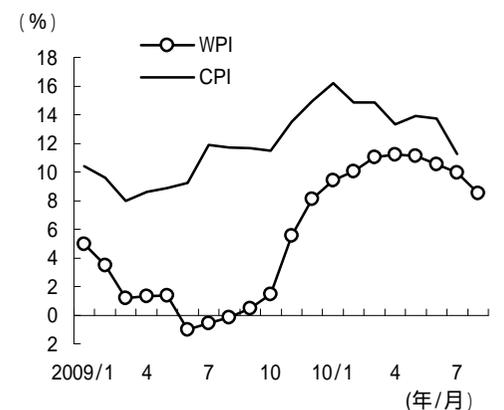
(図表3-6)インドの成長率(前年同期比)



(図表3-7)インドの経済指標(前年同月比)



(図表3-8)インドの物価上昇率(前年同月比)



4. 中国経済

<7~9月期は1桁成長、政府は引き締め強化>

・7~9月期の実質GDP成長率(前年同期比)は、9.6%。4半期ぶりの1桁成長にとどまる。1~9月の全社会固定資産投資は前年同期比24.0%増と、伸び率の低下傾向が続く。一方、金融当局は景気過熱防止などの観点から、2007年12月以来となる基準金利の引き上げを20日に実施。

・9月の実質小売売上高は、前年同月比14.7%増。都市部、農村部、いずれも伸びが加速しているが、成長のけん引役としては力不足の面も。同月の自動車販売台数は155.7万台と、5カ月ぶりに150万台を上回る。

・9月の輸出は、前年同月比25.1%増。増勢の鈍化続くも、輸入の伸び率を上回り、貿易黒字は、前年同月を約40億ドル上回る規模。

・食品価格の高騰を主因に、9月の消費者物価上昇率は前年同月比+3.6%と、政府目標(通年で+3%程度)を3カ月連続で上回る。不動産価格(前年同月比)は+9.1%、上昇ペースは緩やかに(前月比では、4カ月ぶりのプラス)。

・10月26日の人民元対米ドルレートは、1米ドル=6.6627元。10月も、元高基調。海外からの為替政策批判への対処に加え、物価対策として推進している面あり。

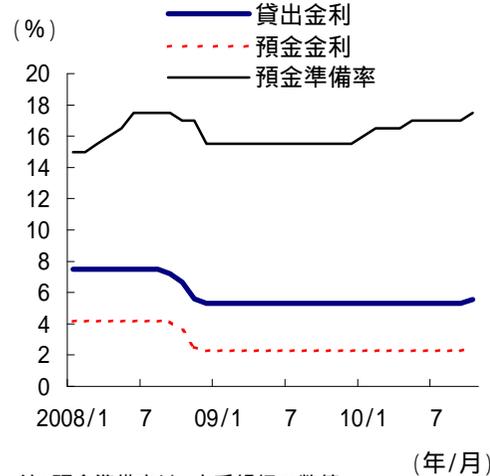
・前年同期の急回復の反動や過熱抑制策を勘案すると、年末にかけて景気の減速が続く、2010年通年では10.1%成長となる見通し。

(図表4-1)実質GDP成長率、全社会固定資産投資(前年同期比)



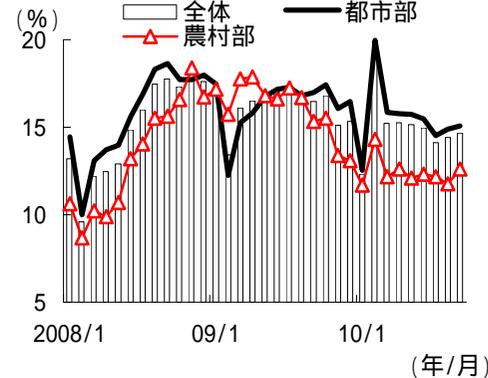
(注)投資は年初からの累計比

(図表4-2)法定基準金利(1年物)、預金準備率



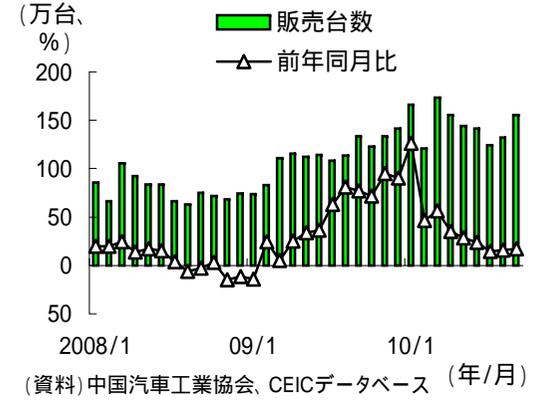
(注)預金準備率は、大手銀行の数値

(図表4-3)小売売上高(前年同月比)



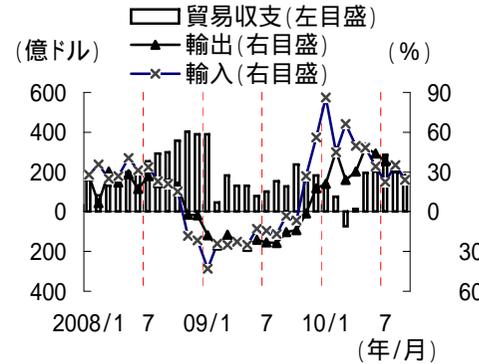
(注)消費者物価指数で名目の伸び率を実質化

(図表4-4)自動車販売台数

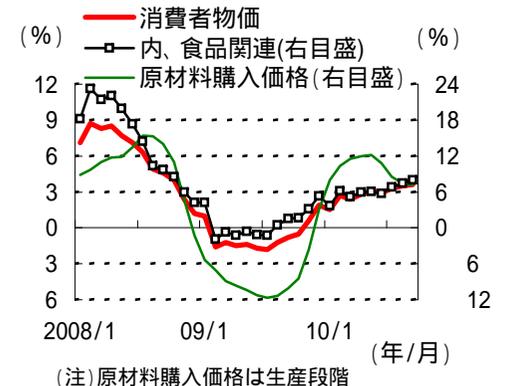


(資料)中国汽车工業協会、CEICデータベース (年/月)

(図表4-5)輸出入の伸び率(前年同月比)、貿易収支

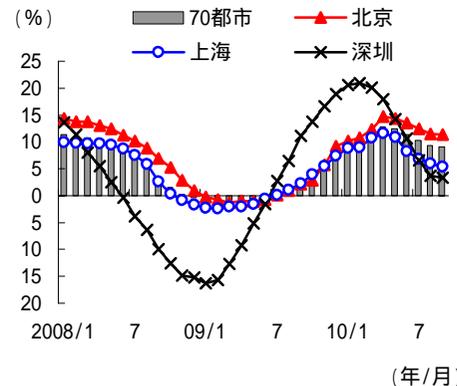


(図表4-6)物価上昇率(前年同月比)

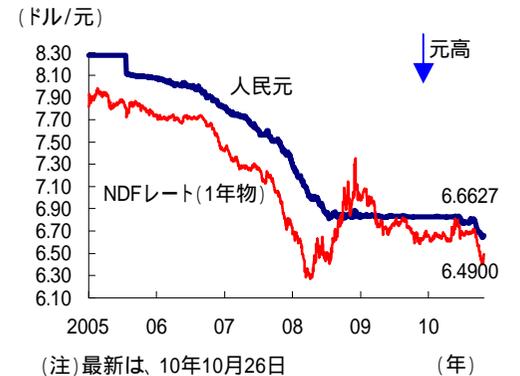


(注)原材料購入価格は生産段階

(図表4-7)不動産価格(前年同月比)



(図表4-8)人民元レート



(注)最新は、10年10月26日